

2019年度（令和元年度） 知床岬399番地上陸ツアー 実施報告

知床羅臼町観光協会

(1) 実施日及び参加者

○1回目 2019.7.20～7.21

参加者数 4名

主催者側 ガイド（船頭・同行者含む） 4名

※同行者：川端さん

○2回目 2019.7.26～7.27

参加者数 13名（ほか添乗員1名、撮影・取材4名）

主催者側 ガイド（船頭・同行者含む） 6名

※同行者：川端さん、鈴木さん

○3回目 2019.7.30～7.31

参加者数 3名（ほか撮影・取材2名）

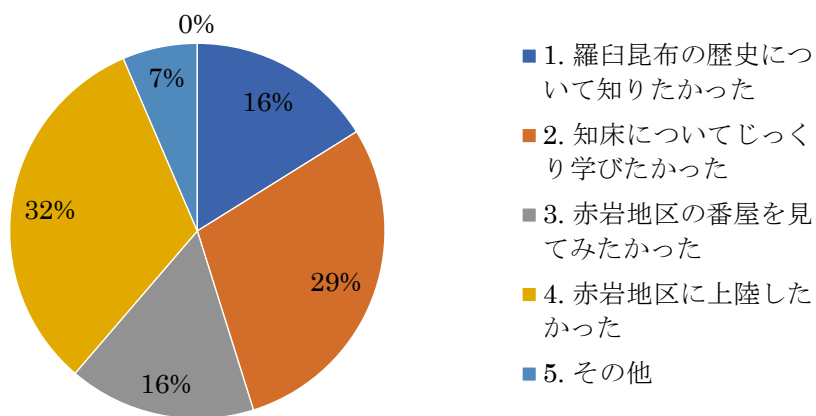
主催者側 ガイド（船頭・同行者含む） 6名

※同行者：川端さん、鈴木さん

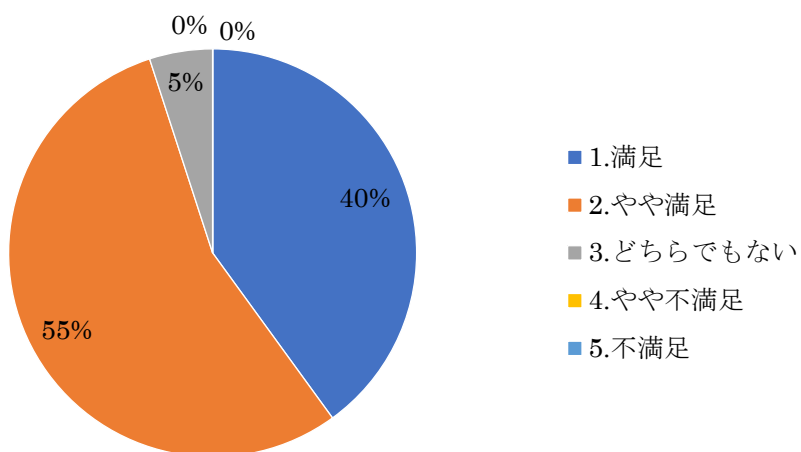
(2) 2020年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点よりツアーの募集を中止いたしました。

2021年度につきましては、実施の方向で募集を致します。

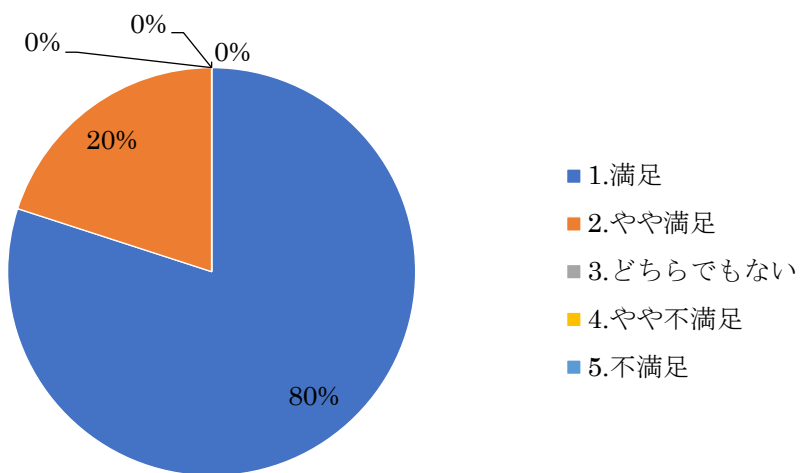
Q1 このツアーになぜ参加しようと思われましたか？



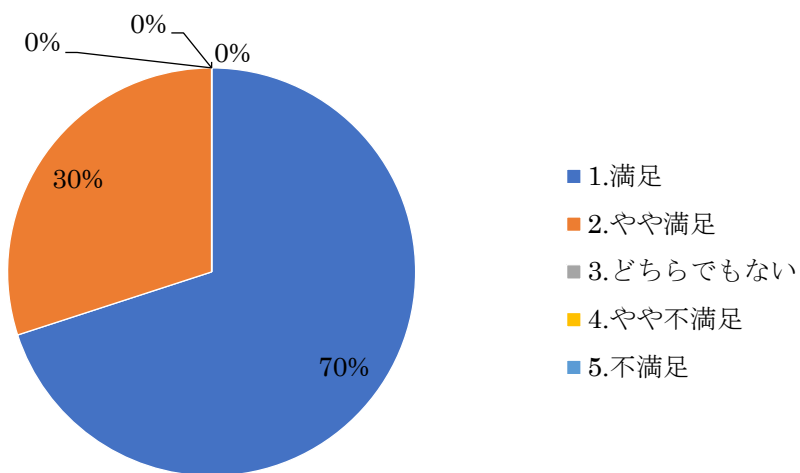
Q2 1日目の羅臼地区の羅臼ビジターセンターの満足度

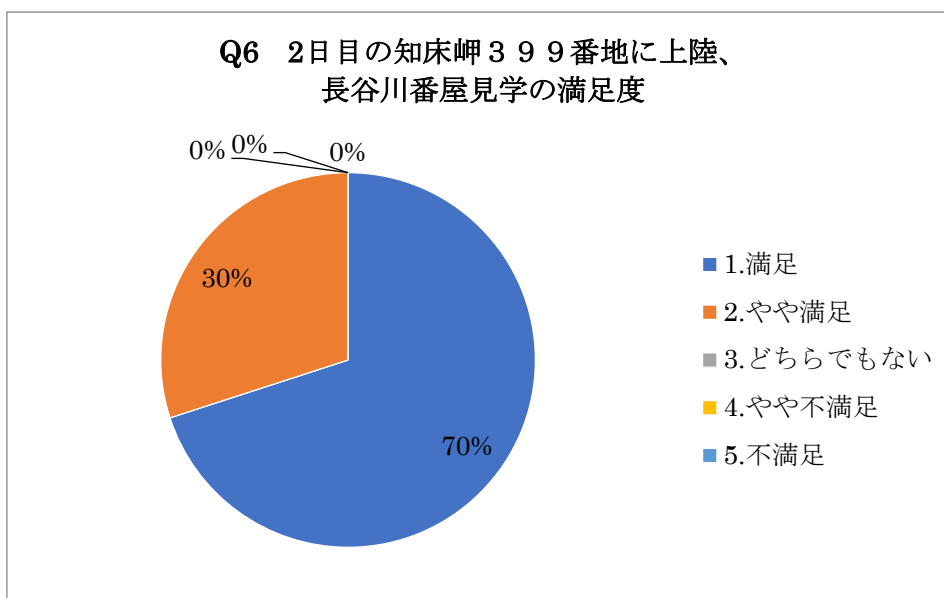
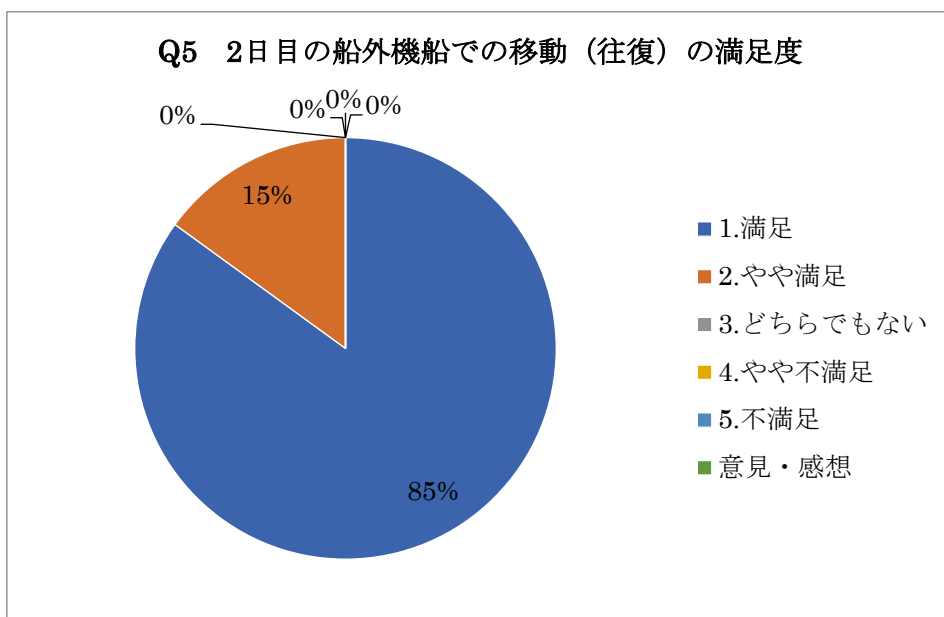


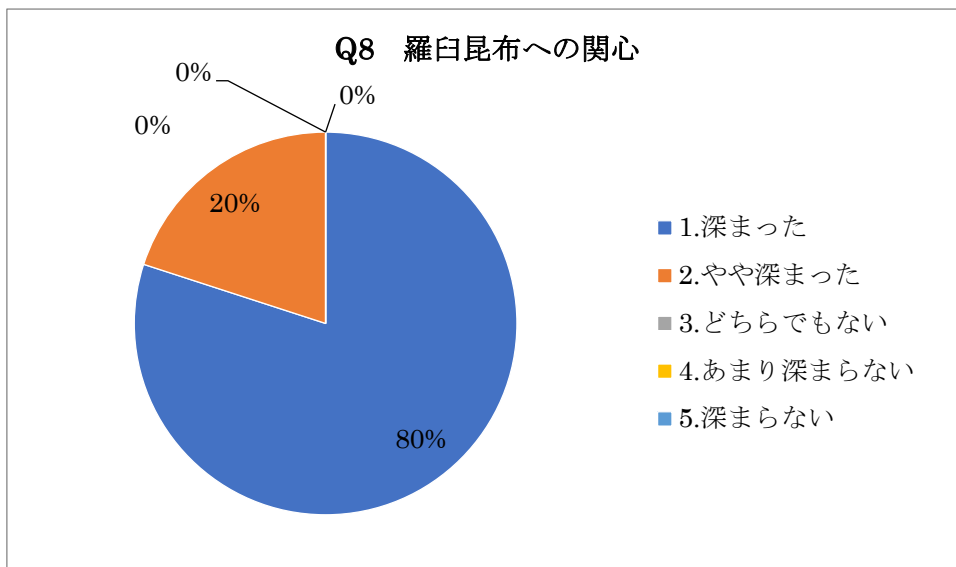
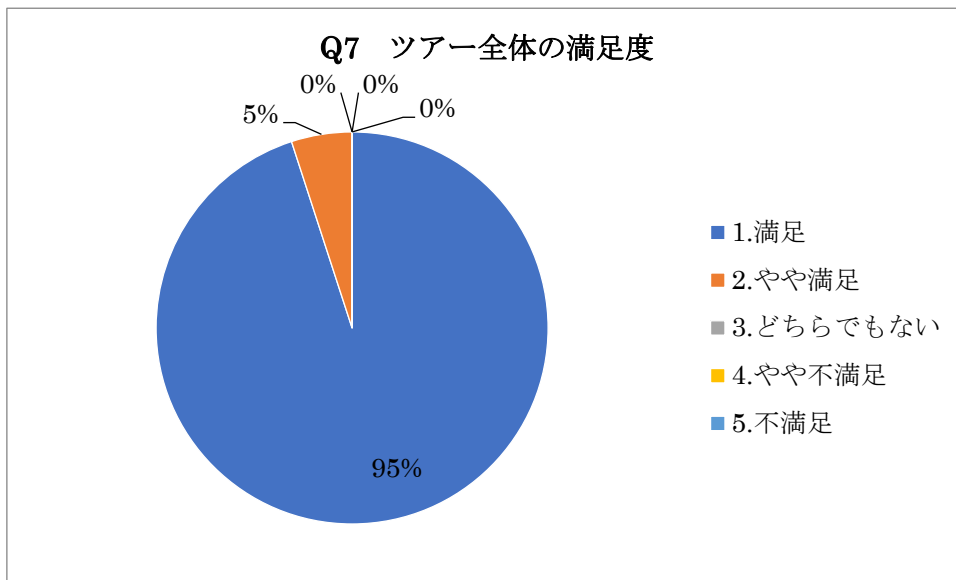
Q3 1日目の羅臼地区の昆布のレクチャーの満足度



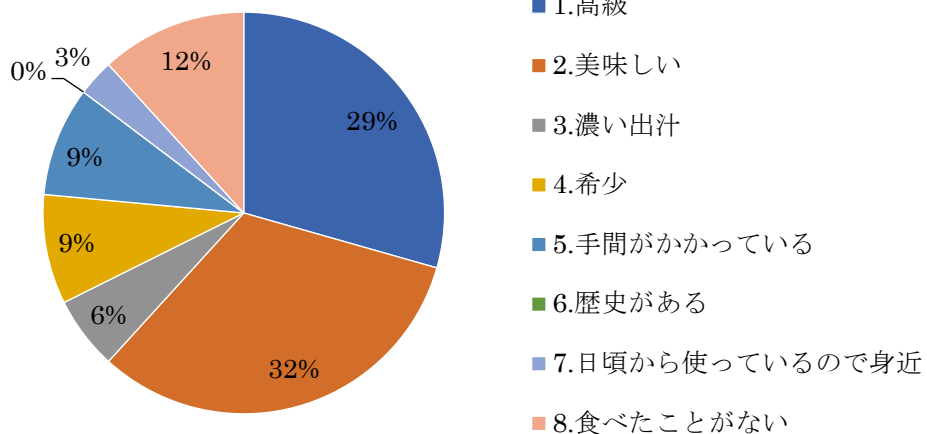
Q4 1日目の羅臼地区の羅臼昆布番屋見学の満足度



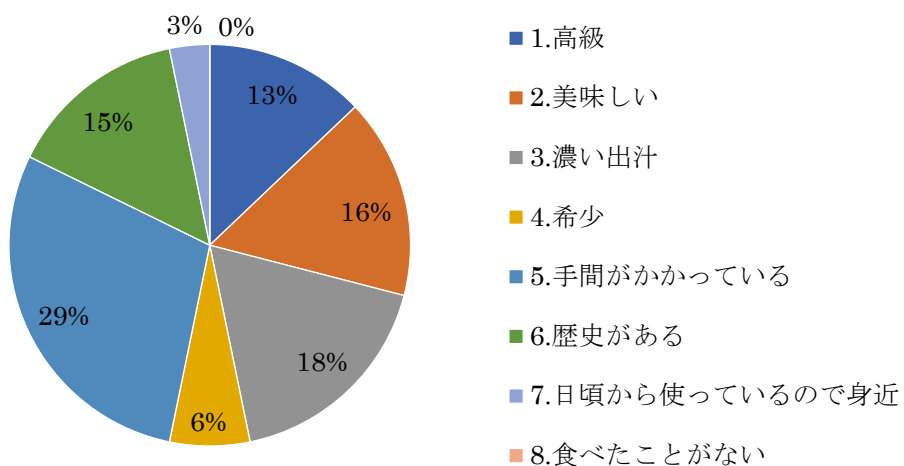




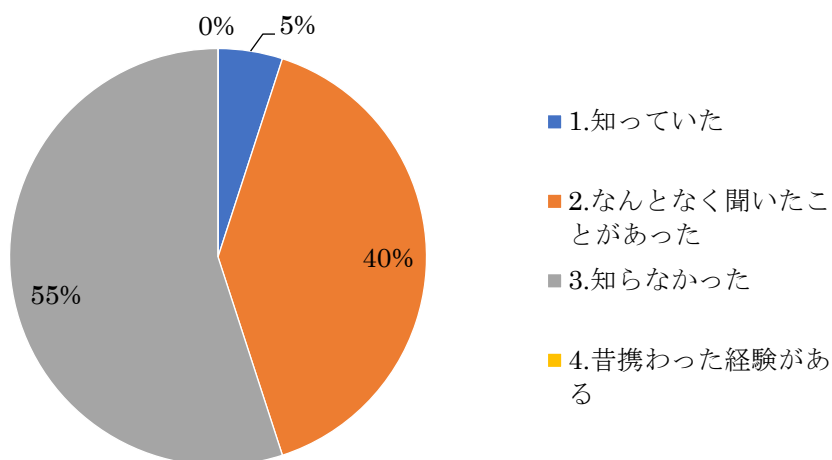
Q9 ツアーに参加する前の羅臼昆布のイメージ



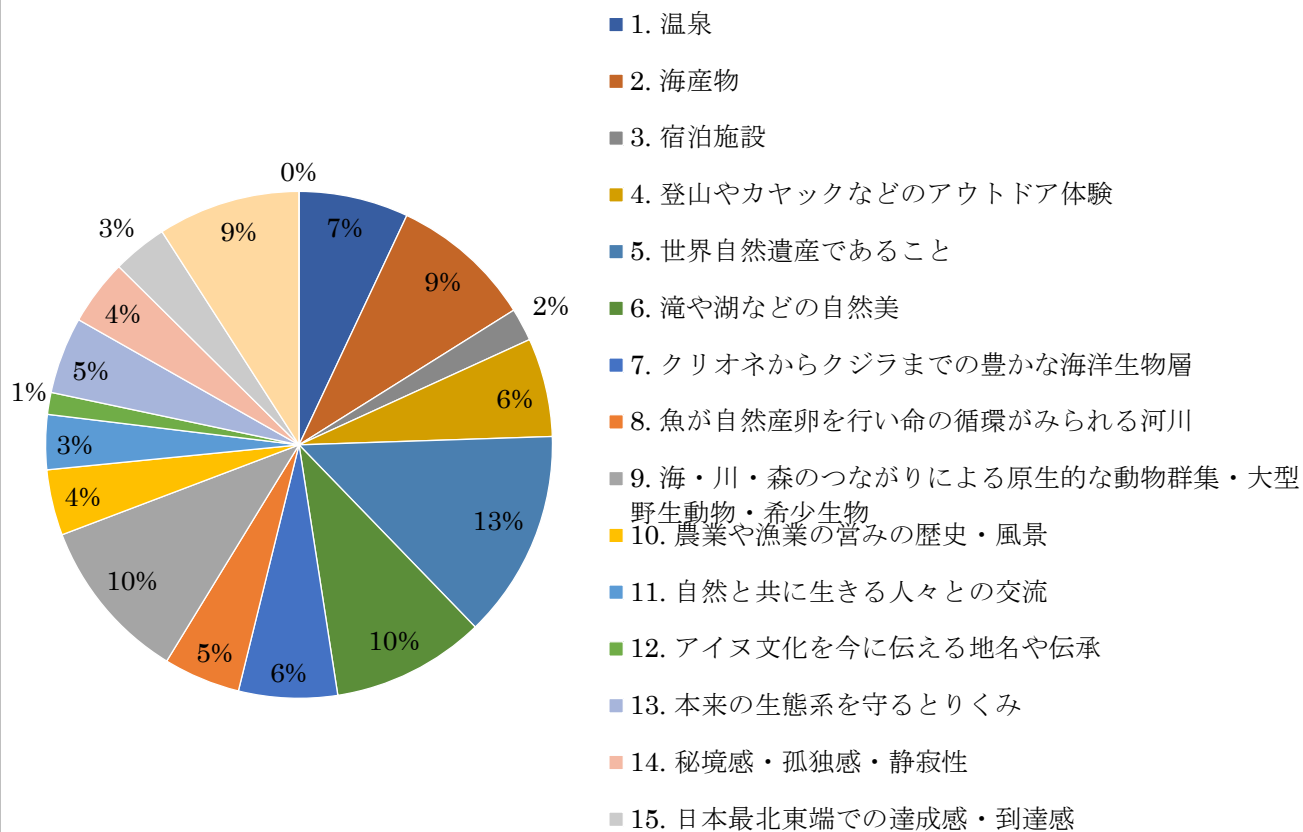
Q10 ツアーに参加した後の羅臼昆布のイメージ



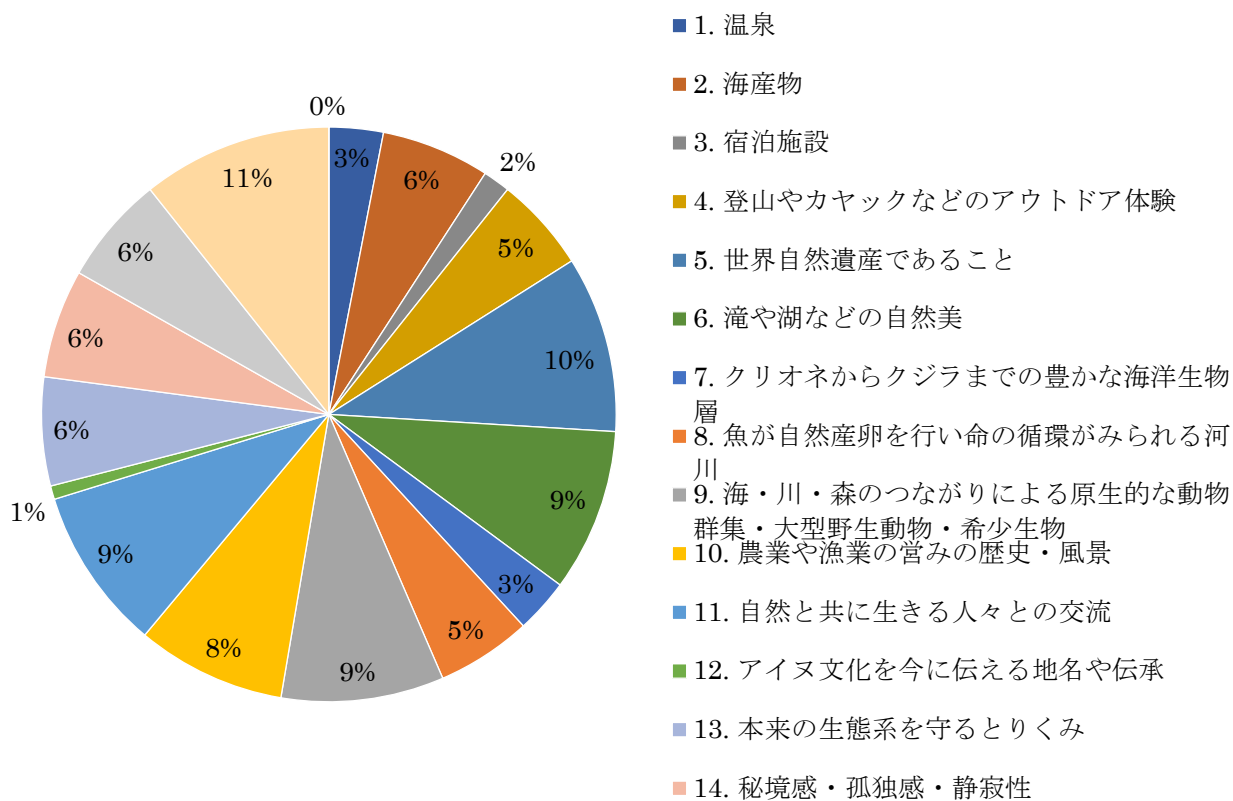
Q11 昔から羅臼昆布漁が営まれていたこと



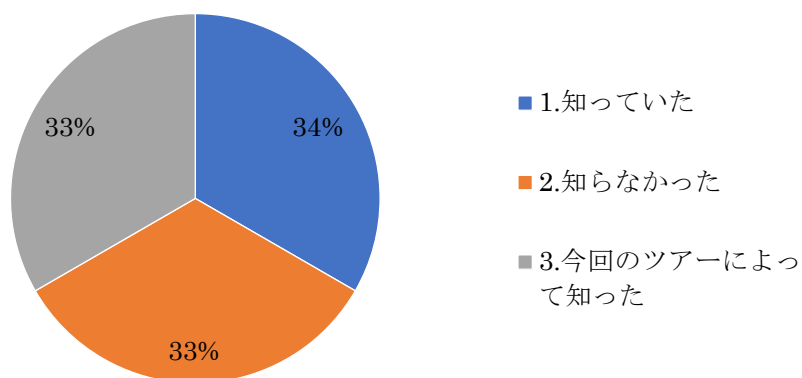
Q12 ツアーに参加する前、あなたが「知床の価値」だと思っていたこと



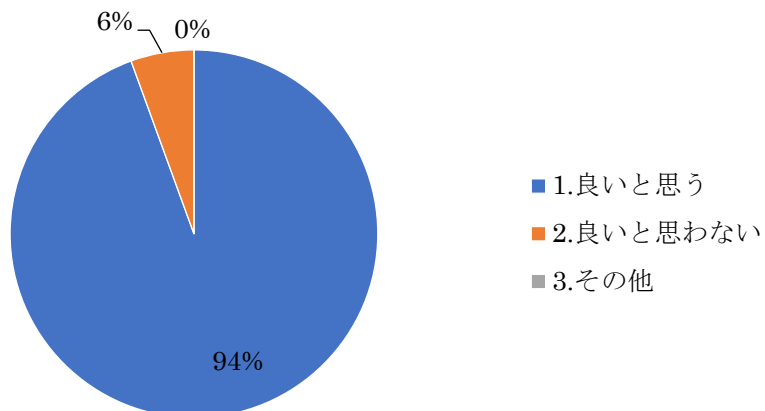
Q13 ツアーに参加した後、あなたが「知床の価値」だと思うこと



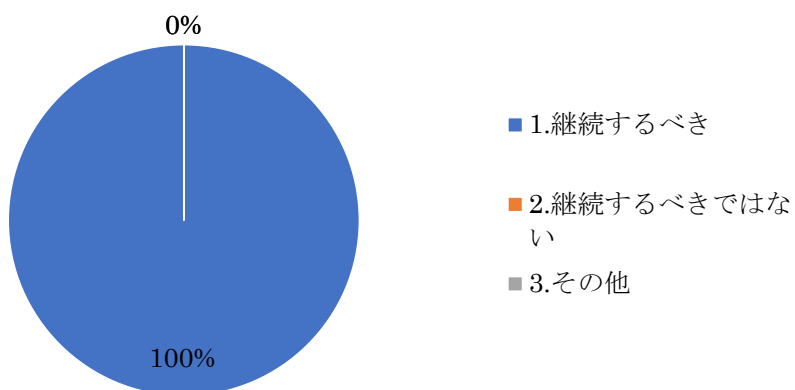
Q14 知床岬地区利用規制指導に関する申し合わせを知っていましたか？



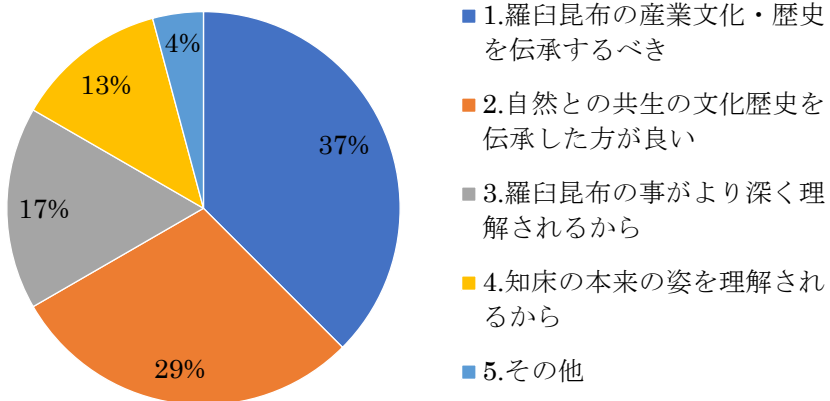
Q15 今回のツアーを羅臼昆布漁の歴史・文化を伝える
ために実施することについて



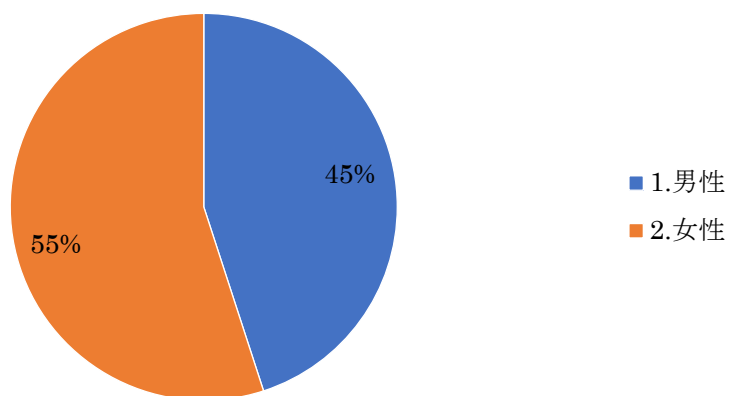
Q16 今回のツアーを今後このツアーを
継続することについて

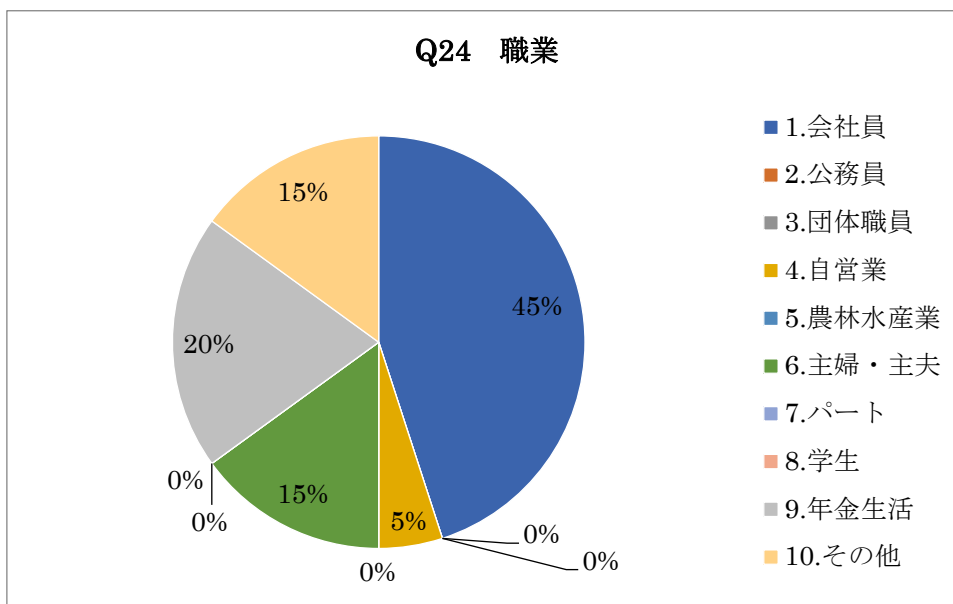
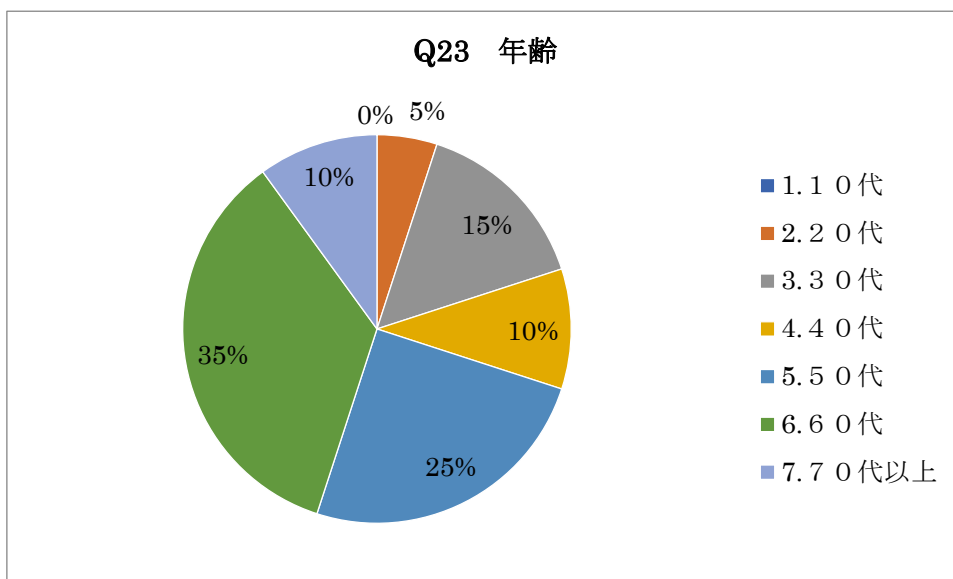


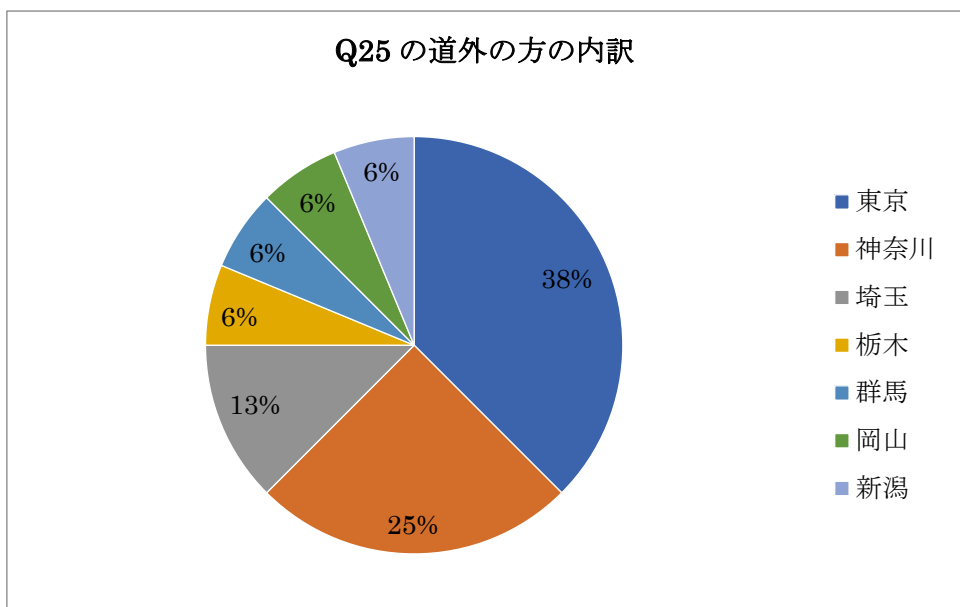
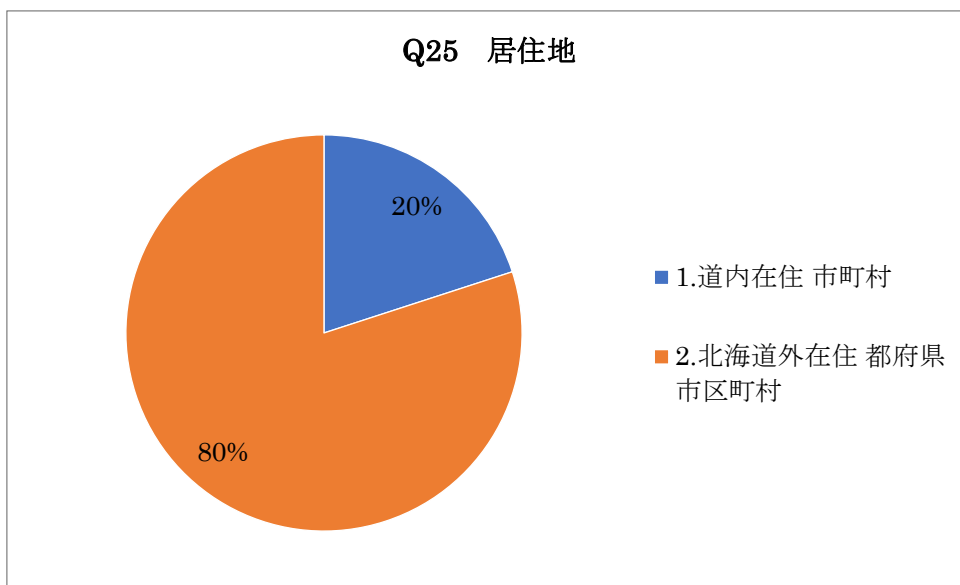
Q17 Q16で継続するべきと答えたその理由

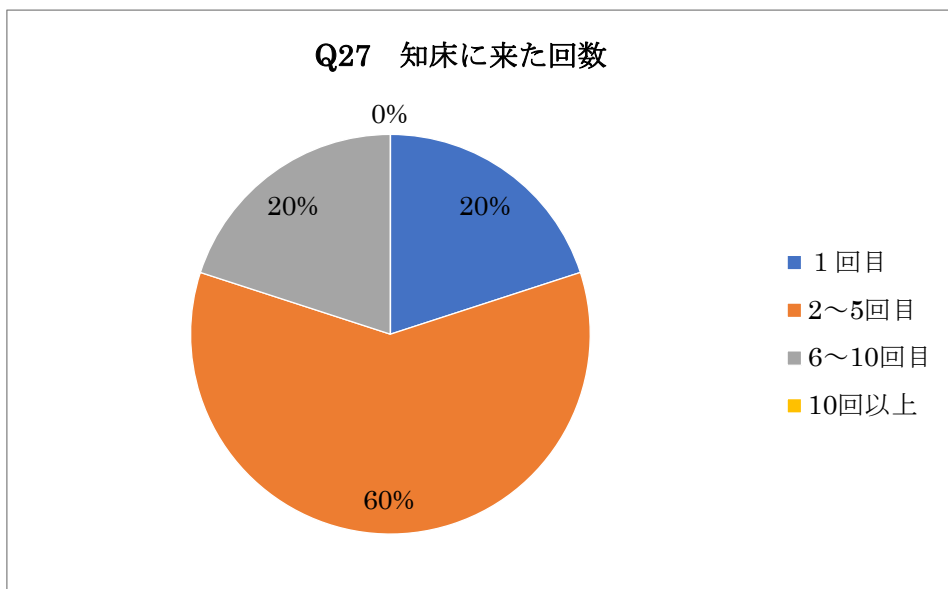
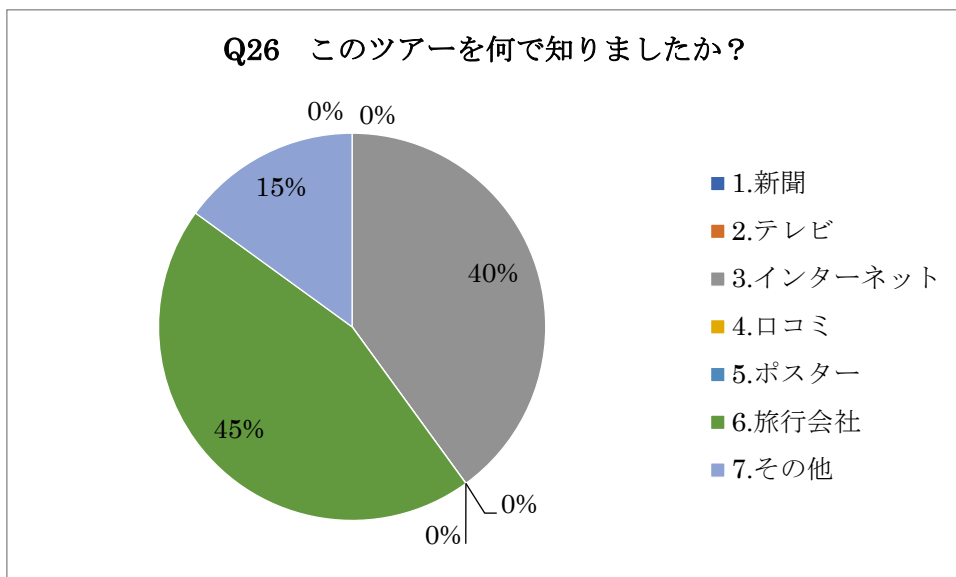


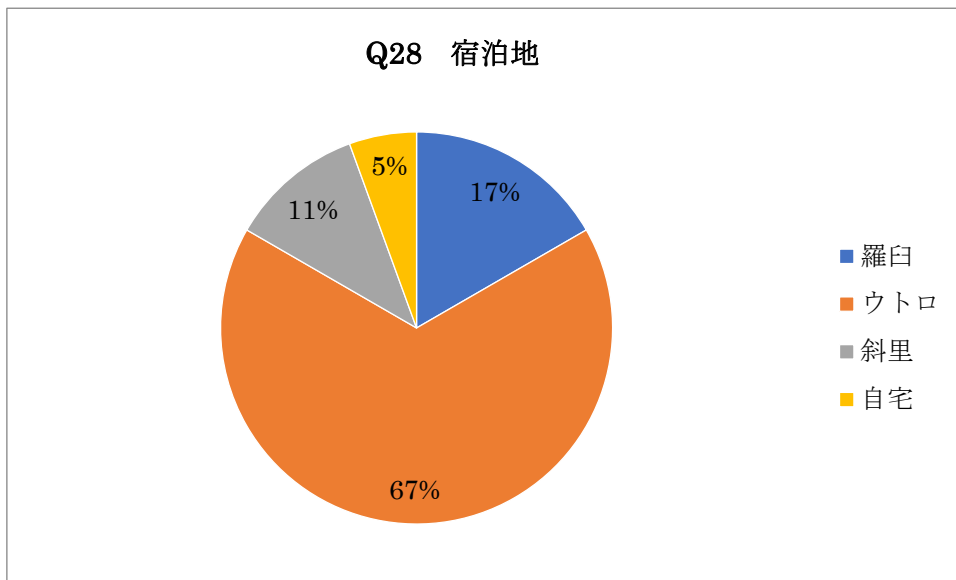
Q22 性別







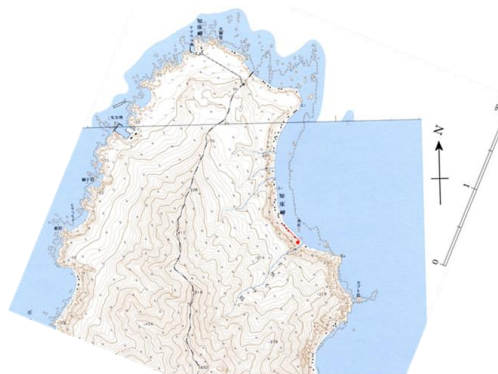




知床岬（赤岩地区）に残る共生の歴史

伝統的に続く羅臼昆布漁法と先人の苦勞を知ることは、知床における人と自然の関わり合いや共生の歴史を知り、考えること。

知床半島突端から約 3 キロ南に位置する赤岩地区、70 年代の最盛期には 5 6 件の昆布番屋が立ち並んでいました。本ツアーでは、行程の 2 日目に、通称“赤岩地区”の“目梨郡羅臼町知床岬 3 9 9 番地”に遺る最古の昆布番屋を訪ねます。



最古の番屋

かつては漁期の夏になると市街地から多くの漁師とその家族が赤岩地区に移り住んでいました。現存している最古の番屋は、明治末期から赤岩地区で操業していた長谷川家。(有) 知床ネイチャークルーズで観光船を営む長谷川正人さんが所有する番屋で、曾祖父から 4 代続く漁師として 30 代半ばまで赤岩地区で昆布漁に従事してきました。



知床岬（赤岩地区）での昆布漁

道路・水道・電気がなく市街地に比べ苦勞も多い知床岬（赤岩地区）での昆布漁。今のように船外機もない時代、櫓付きの帆船で家族総出 8 時間もかけての大移動します。そんな場所へなぜ多くの漁民が移り住み漁業を営んできたのでしょうか。

道路・水道はなく限られた電力だけで漁業を営んできた赤岩地区を訪ねることで、その理由を知り伝えます。



知られざる価値

50 歳以上の地元住民の多くは知床岬などでの漁勞活動を経験してきました。しかし、現在は漁勞活動を経験した人も少なくなり、明治末期から行われてきた先人たちの苦勞や守り伝えられてきた文化を後世に残すことが難しくなっています。

知床の豊かな生態系から恩恵を受け、厳しくもある知床岬先端部の自然の中で生活しながら家族単位で営まれてきた漁業と自然との共生の歴史・文化を後世に遺したいという想いのもと、本ツアーを実施しています。



ツアー内容

【1日目】

①羅臼ビジターセンター

映像視聴、館内のジオラマや標本を使用し、知床及び知床岬先端部の利用についてガイドが解説する

②昆布についてのレクチャー

羅臼町内施設において、羅臼昆布の特長や漁業の手法、製品化の過程について、ガイド及び漁業者解説により学習する。

③現代番屋見学

羅臼市街地地区にある番屋を見学し、乾燥小屋の仕様や番屋内部の温湿度管理の仕組み・機械化についてガイドが解説し学習する。



【2日目】

④船外機移動

相泊港において、ガイドの紹介、知床岬(赤岩地区)までの航路、移動中の注意事項を説明。外来種持ち込み防止の取組について必要性を説明し、全員が靴裏洗浄。

知床の自然及び各地域の特徴、羅臼町で行われている様々な漁について解説しながらの移動。天然昆布漁、養殖昆布漁、小定置網漁など現場を見学しながら解説。

⑥赤岩地区最古の長谷川番屋見学

知床岬(赤岩地区)上陸後、地域の特性を再度説明。行動・携帯トイレ・ヒゲマ対策について注意事項を説明・実演し、礫浜を1列になって移動。赤岩地区の植生・昔の写真を用いて浜の形状の変化について学習。長谷川番屋前にて当時の昆布漁について解説。長谷川番屋内では、登録ガイドが当時の暮らしや苦勞・楽しみなどを語る。



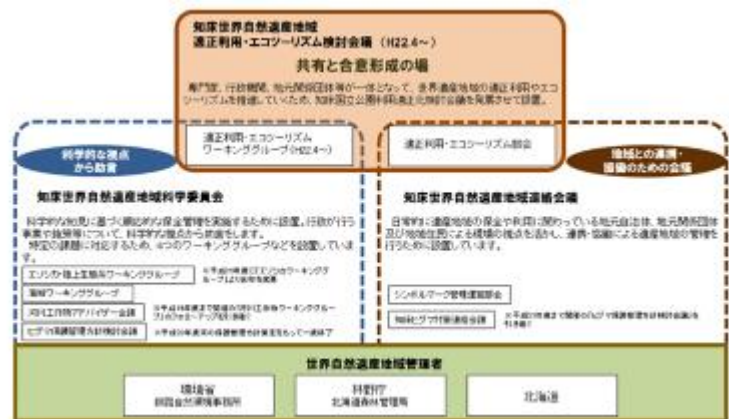
ツアー実施までの経緯・経過

提案の背景・理由

知床半島先端部地区は、一般観光やレクレーション目的の動力船による上陸が認められておらず（「知床岬地区の利用規制指導に関する申し合わせ」）、全く人の立ち入らないイメージがあるが、羅臼町側の海岸線では 70 年以上前から昆布漁が行われ、50 代以上の地元住民は岬などでの漁労活動を経験しており、知床の自然についての体験を自らの経験から語る事ができる。しかし、先端部地区の漁家は年々減少しており、この地区での漁労活動そのものが見られなくなる可能性があり、先端部地区の自然や歴史を知らない地元住民が増えつつある。

観光客並びに地元住民に対して伝統的に続く羅臼の漁業活動を現地で紹介し、知床における人と自然の関わり合いや共生の歴史を後世に伝え伝承してゆく必要がある。知床の豊かな海の生態系に支えられて、原生的自然環境の中で生活しながら家族単位で営まれていた、漁業と自然との共生の歴史を町内外に伝えていきたい。

～知床羅臼町観光協会が中心となり、関係機関・団体・個人の方々の協力のもと、知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議に提案～



図：知床データセンターHPより転載

取組と経過

H26. 5/9 第 1 回検討部会

5/20 第 2 回検討部会 第 1 回の課題解決・6 月検討会議提出内容の確認

7/14 検討会議 本事業の提案、モニターツアーの提案。

3 年間のモニターツアーの実施を承認。

8/8～ モニターツアー実施 (8/8・9、8/13・14 の計 2 回)

10/9 第 3 回検討部会 本事業の内容見直し

12/17 第 4 回検討部会 (荒天中止) 検討会議に向けた内容の確認 メール協議

H27. 1/22 検討会議 本事業の提案 (再)・モニターツアーの継続を承認。

検討部会を実施部会として再構成。

2/1 ガイド登録について検討開始

7/20～モニターツアー実施 (計 7 回)

8/24 第 1 回実施部会 本事業内容の実施状況確認

9/1 検討会議 本事業の報告

H28. 8/12～モニターツアー実施 (1 回)

8/23 第 2 回実施部会

9/6 検討会議 本事業内容の実施状況確認、本事業の提案 (再)

2/10 意見交換会

2/17 第 3 回実施部会

3/9 検討会議 本事業 3 年間の実施状況報告、本事業の提案 (再)

本ツアーの実施を承認。

知床世界自然遺産地域適正利用エコツアーリズム検討会議 承認

～知床岬の歴史は羅臼昆布にあり～

知床岬 399 番地上陸ツアー



○ツアーに関する取材のお問合せ 0153-87-3360 (企画者：知床羅臼町観光協会)
メールアドレス info@rausu-shiretoko.com

○ツアー実施・申込に関するお問合せ 0153-85-7604 (実施者：知床らうすリンクル)

○知床世界自然遺産地域適正利用・エコツアーリズム検討会議 (知床データセンター内)
設置要綱・会議資料 <http://shiretoko-whc.com/meeting/riyou.html>